

Jul.2007

“あ”はすべての原点、“そ”は蘇生。  
阿蘇は原点に返って復活する場所。

素顔の阿蘇に触れ、  
自分自身を探してみませんか。

素顔の**阿蘇**を探す旅。



*ASO Continent*

# 南小国町 田の原温泉

## 伝説の理想郷にたどえられた 古の温泉地は 今も川のせせらぎに息づく

南小国町の黒川温泉近くに、歴史のある温泉地がある、と聞いた。

それが、田の原温泉だ。江戸時代から続く高級湯治場だったといふこの地域には、歴史と、そしていつも変わることなく「今」を生きる私たちを癒してくれるなごやかな時の流れがあった。



### 豪族の流れを汲む 祖先が発見した温泉

さわさわと、緑の木陰が風を運ぶ。木陰の先に、川のせせらぎ。せせらぎの向こうは、小さな民家が葉のすき間からほのかに見える。たっぷりとあふれる湯が熱くもなく、ぬるくもなく、まつたりと肌を包むー。

ここは南小国町田の原温

泉。南小国といえば、全国屈指の温泉地に数えられる黒川温泉をはじめ、満願寺温泉、小田温泉など温泉地にこと欠かない。中でも、この田の原温泉は最も歴史あるところの一つといわれる。その歴史の古さは、泉源のそばに縄文時代の集落跡が見つ

田の原川を見下ろすように、宿が立っている。かつては10軒の旅館が軒を連ねたといふこの地域。その内の1軒・亀屋という宿が現在の大朗館である。



# 琴垂

Column

## 田の原は現代の桃源郷

まちを流れる田の原の清流、のどかな田園風景と草原の緑…田の原がいかにすばらしいところだったか、江戸中期の漢詩人・米田波門が詠つたその風景は、今もその面影をとどめる。

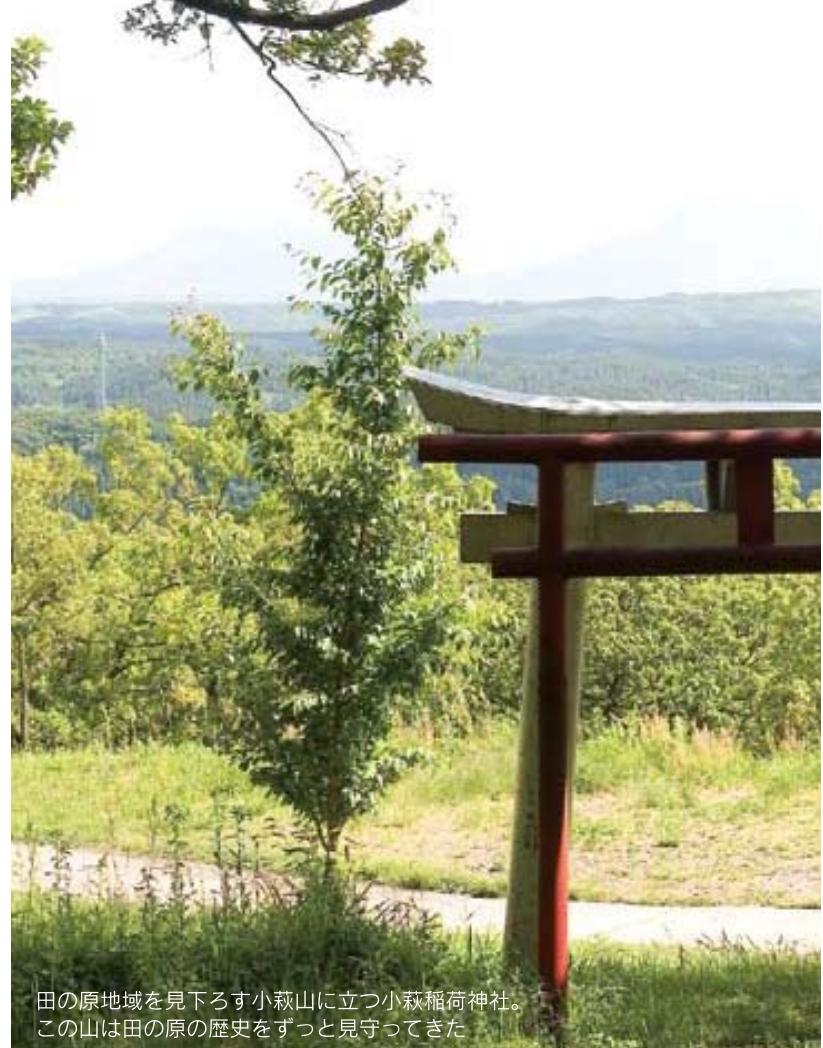
**園は彭沢の趣を成し 溪は武陵の春を憶う**  
(庭園はあの美しい彭沢地域のような雰囲気をかもし、谷の有様は武陵地域の春を思わせる)

**垂柳当門に亂れ 開花挾水に新し** (しだれ柳が門に乱れかかり、花が川の両岸に咲き始めようとしている)

**琴書携えて其れ涉り 鶴犬伴いて相新たなり**  
(琴と書物をもって付近をそぞろ歩くとき、犬や鶴を伴って散歩すると新鮮な気持ちになる)

**流れに憩えば幽興多く 兼ねて着けば秦を遡るに似たり** (川の流れの傍らで休むと奥ゆかしい楽しみが多く、昼夜を兼行して到着してみると、昔秦の圧制を逃れた人たちが築いた理想郷によく似ている)

中国の詩人陶淵明の「桃花源記」。そこには、中國武陵地域の人々が、秦代の圧制を逃れた人たちの手で築かれた理想郷が詠われている。その地は桃の花咲く林の向こうにあったという。波門は、田の原をこの理想郷「桃花源」になぞらえてそのすばらしさを詠い上げている。



田の原地域を見下ろす小萩山に立つ小萩稻荷神社。  
この山は田の原の歴史をずっと見守ってきた

かるほどだ。

「植木町の田原坂（たばるざか）などもそうですが、『原（はる）』という名前が付く土地は、歴史の古いところが多いんです。『田の原』という地名も、鎌倉時代からあつたといわれます」。田の原温泉で最も老舗の旅館である大朗館の主人・北里民夫さんは、この地域の歴史の古さをそう語る。もともと北里氏は、清和源氏の子孫である関東の武士・綿貫次郎左衛門が小国郷にやってきて北里姓

を名乗ったことからおこつた豪族とされる。その豪族の流れを汲む祖先が小国町北里地区からこの田の原に移り住んだ。「祖先は川の中に湯が出ているのを発見して所有の山を切り崩し、川の流れを変えて、泉源を今の状態にしたそうですよ」

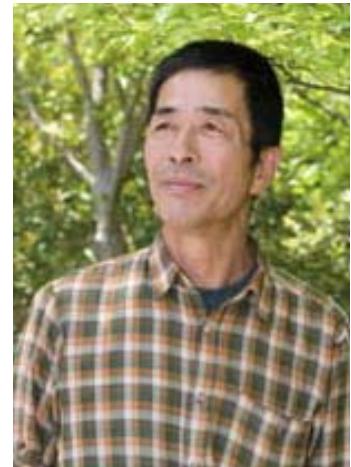
## VIP御用達のセレブな湯治場

江戸時代、既に田の原はよく知られた湯治場だった。

「客層は、肥後細川藩の上級武士でした」と北里さんはこの地の歴史を誇らしそうに語る。もう一軒の旅館・流憩園には、細川家の旧姓・長岡を名乗ることを許されるほど信頼を得ていた細川藩次の弟、米田波門がこの地に滞在して詠んだ漢詩が残されている。

波門は江戸中期の細川藩中老職であり、松洞（じょうとう）と号し、漢詩人として

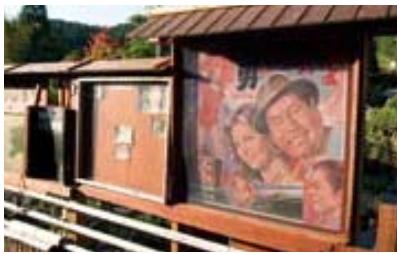
## 川のせせらぎを ききながら…



流憩園の主人、北里和教さん。漢詩からとった旅館の名が、往時から続くすばらしい眺めを表している

江戸にも知られた人物である。波門はよほどこの地に心惹かれたらしく、中国の伝説上の理想郷「桃花源」に例えたほどだ。詩の中で温泉を「仙液」と呼び、薬も必要ない、との効能に感じ入っている。詩には「流憩（流れに憩う）」の文字が見え、宿の名もここからとつたという。

身分制度が厳しかった江戸時代、中老職という「高官」だつた人物が逗留した田の原地域は、高級リゾート地、ならぬ高級湯治場といえる。実際庶民が田の原温泉に入つたという記録はない。ここ田の原は、VIP御用達だったようだ。



映画「男はつらいよ」21作のロケ地となつことでも知られる田の原温泉。木の実ナナをマドンナ役に迎えたこの映画では、若き日の武田鉄也が地元熊本の青年として登場している

今一、藩の要人ならぬ身も、この「仙液」を思う存分味わうことができる。田の原温泉でなんといつてもお薦めなのは、種々の家族風呂だ。大朗館には露天風呂付きの川の流れを間近に見ることができる「観音風呂」をはじめ、「明神風呂」「樽風呂」など9種類もの家族風呂がある。波門が漢詩を残した流憩園の家族風呂も、同じく川の流れのすぐそばだ。どの風呂の眺めも、ここを流れる田の原川を抜きに語ることはできない。山田洋次監督がここ1／女性用露天風呂と並んで設置された流憩園の家族風呂。川の流れる音、鳥のさえずり、目にしみる緑…目にも耳にも、心にもやさしい自然を感じることが出来る 2／大人がちょうど1人入ることのできる釜を二つ並べたユニークな五右衛門風呂・釜風呂。1時間1000円、入るには予約が必要。 3／家族風呂だけでも9種類もあるのが自慢の大朗館。2人1時間1500円の明神風呂は川のすぐそばに造られたロケーションを楽しむことができる。



1／女性用露天風呂と並んで設置された流憩園の家族風呂。川の流れる音、鳥のさえずり、目にしみる緑…目にも耳にも、心にもやさしい自然を感じることが出来る 2／大人がちょうど1人入ることのできる釜を二つ並べたユニークな五右衛門風呂・釜風呂。1時間1000円、入るには予約が必要。 3／家族風呂だけでも9種類もあるのが自慢の大朗館。2人1時間1500円の明神風呂は川のすぐそばに造られたロケーションを楽しむことができる。



流田の原温泉で一番の老舗・大朗館の主人・北里民夫さん。この地域の歴史にも詳しい

画「男はつらいよ」第21作のロケ地にもなったというが、それもこの川のせせらぎあってのことだろう。映画の舞台となつた大朗館には今も撮影当時の貴重な写真が残されている。「当時赤ん坊だったうちの長男も映画に出てたんですよ」。映画が公開されたのは昭和53年、今から29年前だ。赤ん坊だった長男は結婚し、子どももできた。孫に当たるその男の子を抱っこして、北里さんはなつかしそうに当時を振り返る。

## 阿蘇からアジアへ もてなしの広がりを

「もともと農家で、はじめから旅館をしよう、と思って



いたわけではないんですが……」湯之迫の主人・佐藤良治さんは、とつとつと、開業の経緯を振り返る。湯之迫の開業はこの田の原で一番遅いものの、温かなもてなしと旬の素材を活かした食事が人気の宿である。小国ジャー・ジー牛乳の焼プリンを最初に提供し始めたのも、ここだ。

「小国大根を作つていたんですが、親戚がたまたま旅館

をやつしていく、お客様に喜ばれるというのもいいな、と」。親戚の旅館や日本料理店などで修業を積んだ今「料理は全部私がやっています」。もともと農家なのだから食材に関してはプロフェッショナル。素材の味わいをどう活かすかはお手の物だ。

「(この商売を)していると、本当に色々なことがありますよ」。夜中に突然産気づいた客を病院まで送り届けたこともあります。夜中に突然産気づいた客を病院まで送り届けたことは本当にあります。『あの時は本当にありがとうございました』って。うれしいです。はにかむような笑顔が浮かぶ。「これからですか? そうですね……。4年前に離れを造りましたが、これ以上広く、ということは考えていないですね。ただ、田の原の良さをもつと多くの人に知つてほしいと思います。



1／ユニークな家族風呂が自慢の湯之迫。土俵型のこの風呂は木々の緑越しに川の流れが見える。脱衣所には本物の番付表が張られている。  
2／樹齢250年の松の木を1本まるごとくりぬいた松の湯。二人が向き合って入るとちょうどよい大きさになっている。

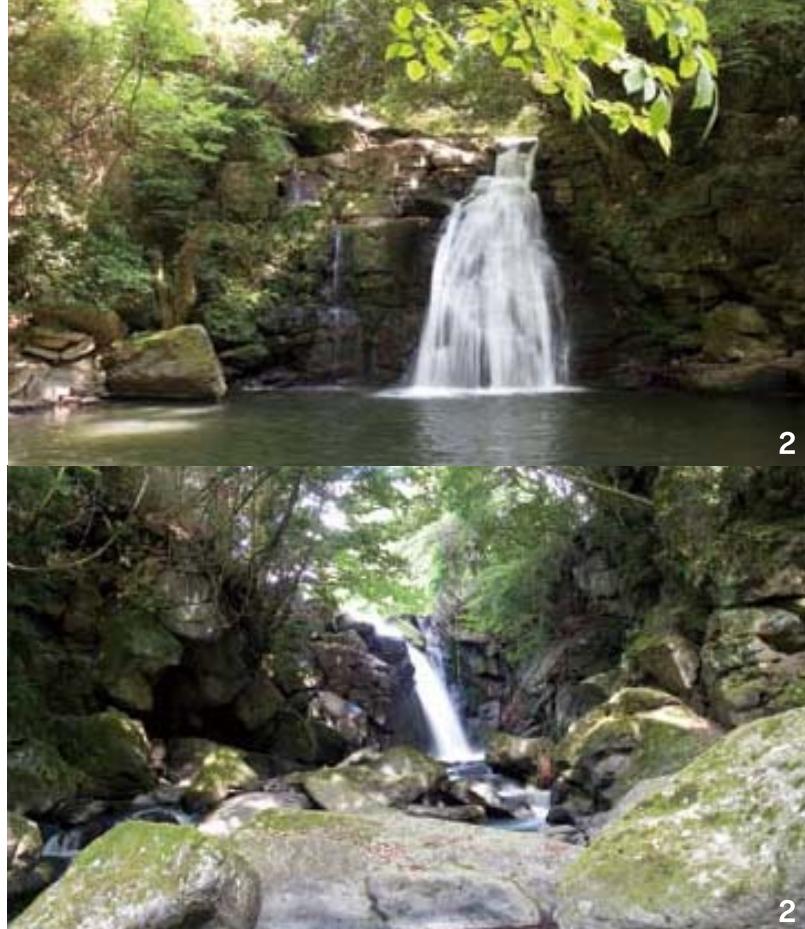
日本人だけでなく、アジアの人たちにも」。佐藤さんは再び、照れたような笑みを浮かべた。

ともあるという。「そのお客様が産まれた子どもを連れて、また来てくれて、『あの時は本当にありがとうございました』って。うれしいです。はにかむような笑顔が浮かぶ。「これからですか? そうですね……。4年前に離れを造りましたが、これ以上広く、ということは考えていないですね。ただ、田の原の良さをもつと多くの人に知つてほしいと思います。



湯之迫の主人・佐藤良治さん。4年前には離れたる宿も造り、もてなしに心を配る日々だ。

## まちを見守ってきた 草原と神社



1／宿が並ぶ田の原の中心部を一歩出ると、そこはあか牛がのんびりと草を食む草原だ。手の触れそうなところに牛たちが見える 2／旅館湯之迫から歩いて10分ぐらいのところに、夫婦滝がある。落差が大きく勢いよく落下している雄滝、それより落下が緩やかな雌滝、二つの滝が水しぶきをあげ、清涼な空気が漂う。ここは湯之迫の主人佐藤さんら地元に人にとって子ども時代の遊び場だったという。



1

田の原地区を走る国道442号から遊歩道沿いに下ると、夫婦の滝が姿を現してマイナスイオンたっぷりの涼やかな空気に包まれる。ぴょんぴょんと佐藤さんの足が身軽に岩場をつたう。気づいたら佐藤さんの姿は川の向こう岸にあつた。「滝つぼに飛び込んだり、子どもたちが遊び場だったですね」。

ここからさらに車で北へ20分ほど、小萩神社と呼ばれる神社へ向かう。草原の草を

田の原では、時間をさえてそこに流れる、優しい時間を。田の原では、時間さまでなすまちの人たちを。そしてそこに流れ、優しくそれをもてなすまちの人たちを。それに癒された人たち、彼らをしてマイナスイオンたっぷりの涼やかな空気に包まれる。ぴょんぴょんと佐藤さんの足が身軽に岩場をつたう。気づいたら佐藤さんの姿は川の向こう岸にあつた。「滝つぼに飛び込んだり、子どもたちが遊び場だったですね」。



毎年5月3日、地元の人たちの手で例大祭が行われる小萩神社。商売の神様恵比寿様を祭つてある。恋の成就祈願にハート型の「絵馬」がかけられている

食むあか牛が手に触れるほどそばにいる。草原の間を登ったところにある神社からはまちが一望できる。この草原と神社は、このまちを見守ってきた。効能豊かな温泉と温泉をもてなすまちの人たちを。そしてそこに流れ、優しくそれをもてなすまちの人たちを。それに癒された人たち、彼らをしてマイナスイオンたっぷりの涼やかな空気に包まれる。ぴょんぴょんと佐藤さんの足が身軽に岩場をつたう。気づいたら佐藤さんの姿は川の向こう岸にあつた。「滝つぼに飛び込んだり、子どもたちが遊び場だったですね」。



## 田の原温泉の宿



### 旅館 大朗館 9種類の家族風呂が楽しめる老舗宿

歴史ある宿屋を代々受け継いできた旅館。家族風呂が充実している。「男はつらいよ第21作」の撮影場所になったこともあり、旅館内には数々の貴重なパネルなどが飾られ、当時の話を聞くのも楽しい。18歳から25歳まで熱海と箱根の旅館で修業したという主人が腕をふるう料理は、肥後牛、鮎、天草大王、馬刺など「熊本らしさ」が特徴だ。

〒869-2402 熊本県阿蘇郡南小国町田の原温泉  
TEL 0967-44-0908

#### 料金

- 平日／宿泊 11,000円～15,000円
- 休日・祝日／宿泊 12,000円～16,000円 ※宿泊客は貸切湯に入り放題。
- 家族風呂／檜・樽・石・釜風呂／1時間 1室 1000円～2000円  
※釜風呂は要予約
- 露天家族風呂／明神風呂／1時間 2000円 (2人料金)  
観音風呂／1時間 1500円 (2人料金)  
いずれも1人増えるごとにプラス500円 (多人数の場合相談可能)
- 立ち寄り貸切湯／11:00～21:00

## 旅館 流憩園

### 川のせせらぎと緑…自然満喫の家族風呂

川沿いにある露天風呂は見晴らしもよく、川のせせらぎを聴きながら温泉に入ることができます。露天風呂と露天の家族風呂が男女別にあり、宿の建物から露天風呂までがちょっとした遊歩道になっているので、自然散策が楽しめる。採れたての山菜料理も自慢。

〒869-2402 熊本県南小国町田の原 6953  
TEL 0967-44-0747

- 料金
- 平日／宿泊 10,500円～12,600円
  - 休日・休祝前日／宿泊 11,550円～13,650円  
(入湯税 150円別)
  - 家族風呂 1時間／1人 500円



### 旅館 湯之迫 離れ ほたるの宿

#### 旬の素材をふんだんに使っておもてなしを

小国ジャージー牛乳をメインに使った焼きプリンやホットパイグラタンのほか、川魚・地元の野菜・自家栽培の米など地産地消にこだわった自然の味を売りにしている。また、季節の素材をふんだんに使った料理を出しているので年間を通して楽しめる。こじんまりとした家族湯のほか、館内の浴場を貸しきりにすることもできる。

〒869-2402 熊本県阿蘇郡南小国町田の原温泉  
TEL 0967-44-0231

料金

- 休日・休祝前日／宿泊 本館 11,550円～13,650円  
離れ 16,800円～18,900円(風呂付)
- 平日／宿泊 本館 10,500円～  
離れ 15,800円～17,850円(風呂付)
- 立ち寄り貸切湯／一人 500円

(財)阿蘇地域振興デザインセンターは阿蘇地域の地域づくり、観光振興、環境・景観保全、情報発信を行っています。

## 田の原温泉 ぐるめラインナップ

**山の飯 紗羅(シャラ)**

手打ちそばと完全無農薬合鴨米のスローフード

信州ハケ岳産のそば粉に地下70メートルから冷たい水で打ったそばが自慢のそば料理店。ほかに、地元で採れた山菜、完全無農薬合鴨米などが楽しめる。そば茶や完全無農薬合鴨米は店頭でも販売している。

- 営業時間 / 平日 11:00~17:00  
土・日・祝日 11:00~18:30
- 定休日 / 火曜日
- T E L / 0967-48-8355
- U R L / <http://www.shala.jp/>



そばにさまざまな小鉢、コーヒー、デザートが付くもみじ膳1890円



高菜飯に地鶏唐揚げ、だご汁、半熟卵まで付いてボリュームたっぷりのよくばり定食1500円

**お食事処 彩葉(イロハ)**

ボリュームも味も◎、のお得感

国道442号から小田温泉方面へ車で1分の所にある。全てのメニューは、地元の食材を使った手作り。ボリューム満点の定食類のほか、ヨーグルト風味の新食感カスタードプリン・小国ジャージー牛乳プリンもおススメだ。自家製唐辛子佃煮はから揚げや刺身、だご汁など様々な料理に合う。

- 営業時間 / 11:00~19:00 (15:00 以降は要予約)
- 定休日 / 水曜日 (予約があれば水曜も営業)
- T E L / 0967-44-0397
- U R L / <http://www.roten.or.jp/minamioguni/iroha/>

**食事処 辻の茶屋**

“旬”を大切にした、おふくろの味

国道442号線沿いにある。だご汁、高菜飯、馬刺、がめ煮など熊本の郷土料理を中心とした食事処。醤油味のあっさりした中にコクのあるだご汁は特に自慢。季節の野菜・山菜を使った煮しめや天ぷらなど旬を大切にした素朴な味わいが魅力だ。

- 営業時間 / 11:30~19:30
- 定休日 / 火曜日
- T E L / 0967-44-0385
- U R L / <http://www.roten.or.jp/minamioguni/tsujinotyaya/>



季節の山菜・野菜の天ぷら、小鉢が付くとろろ定食1500円

(財)阿蘇地域振興デザインセンターホームページ <http://www.asodc.or.jp>阿蘇の魅力を動画で配信！「阿蘇テレビ」 <http://www.aso-tv.com/>

週末のお出かけはここで決まり！ラジオ番組「ゆっくりのんびり ASO 大陸」(エフエム熊本) 毎週土曜日 12:30~13:00